

とよた世間遺産認定候補一覧

通番	種別	名称	所在地	定義/ 推薦理由・物語
1	モノ	自然の盆栽・犬伏川の昇竜松	押沢町 犬伏川左岸	川岸に生えた松が、ツルが長年絡まっていたことにより幹がねじれ曲がってしまった赤松。見方によっては、天に昇る龍のようにも見える。自然の盆栽とも。珍しさと、見立てのおもしろさを楽しむ身近な遺産として推薦。
2	モノ	明治用水の三連水車	広美町	パイプライン化された明治用水の経路上に「明治用水緑道」と呼ばれる自転車・歩行者専用道路が整備されている。その一角に「水車公園」があり、下掛け式と呼ばれる農業揚水用の水車を模した三連水車が造られている。水車の直径は上流より3.2m、3.6m、4.0mで本体はネズコ材、脚台は恵那産の錆入り御影石を、また動力として明治用水の水を使っている（実際には動いていない）。地域のランドマークとなっており、明治用水の歴史を語る場でもあり、現在は自転車で通る人たちの憩いの場ともなっている面白い場所。
3	モノ	越戸ダムの魚道	平戸橋町	矢作川を遡上する魚が越戸ダムを越えるために設けられた魚道。豊田市民芸館や水管橋に続く遊歩道のような道も近くにあるため魚道に近づくこともでき、季節になれば遡上する魚を間近に見られる。また、もしかしたら現存市内最古の魚道かもしれない。水の利用（発電や用水、ダムの設置）と自然環境への関りを示すなど、矢作川の風景の一つとして面白さがある。
4	コト	矢作川の埋没林	畷部東町中堤外	天神橋の下流の矢作川の流れの中に、まさに林立した枯れた木がある。聞くところによると、埋没していた縄文時代の林が矢作川の河床が下がったことにより、姿を現しているとか。近くの田んぼの中にも、深く掘り返すと大きな木の幹が出てくるという話もあり、一帯がかつては森林だった様子。自然物のタイムカプセルのようで面白く。
5	コト	小田木人形座	稲武地区	明治の初めまで毎年祭礼の日に催されていた郷土芸能の小田木人形浄瑠璃。一度は廃れた人形浄瑠璃を150年ぶりに復活させ、公演活動などを行っている。準備会発足から人形の動かし方や音曲の演奏など研鑽を重ね、文化で地域を盛り上げる活動をしている。
6	ヒト	板倉右京さん	市内	フィンランドの伝統的なゲームを基にしたスポーツ「モルック」。国内大会でのポイント制上位ランカーで、2022年の世界大会（フランス）に日本代表チームの一員として参加し見事3位入賞した実力者。普段は市役所の職員として働くかわら、モルックの普及活動も行っている。身近なすごい人として推薦。 【板倉 右京 プロフィール】 1989.10.13生 豊田市豊栄町出身、在住 豊田市市役所勤務 2019.10にモルックと出会い、その手軽さと戦略の奥深さに惹かれる。 以降、職場や地域に広めながら練習を重ね、全国大会で結果を出せるまでに。 2021年度モルック日本大会優勝 2022年度モルック世界大会国別対抗戦第3位(フランス開催) 2022年度モルックアジア大会優勝